

研修名 保健衛生・安全対策

平成 30 年 10 月 29 日 (月) 10:00~12:30

講演 「子どもの発育・発達の理解と保健計画の作成」
「保健活動の記録と評価」

講師 京都華頂短期大学 中村 洋子 氏



1 講演要旨

1) 子どもの脳が発達する一番大切な時が乳幼児期である

- ① 子どもの脳を意識して、自ら自信が持てるように保育士ができる支援はどんなこと?
子ども自らが「こんなふうになれるようになった」「こんなふうを考えられるようになった」と自分自身に自信がもてるような支援の方法を考える必要がある
- ② そのためには子どもの脳が発達に気をつけること、支援する保育士でありたい
子どもの脳が発達に気づく、感動する、それを支援することが大事
- ③ そのためには自らの脳をきらめかせておくこと
 - ・自分の「脳」とつきあう、動かしておく、感性を磨く
 - ・「脳」全体の部位を使うこと (インプットとアウトプット)
 - ・イメージしながら聞く、話す、考える
 - ・「脳」の集中できる時間は 50 分
 - ・達成感をもつには? (ハードルは低くてもいいから達成感を自分自身がもつ)

2) 実態から出発しよう

実態を捉え、分析・課題を見つけ計画・実行に移す

3) 未来を見よう

- ① 子どもの未来を見よう
子どもがおとなになったときの姿を想像しながら長いスパンで見ていく事が大事
- ② そこから見えてくること、そのためにはどうしたらいいか、今できることを学び
考え行動しよう
保育計画を立てる・PDCAサイクルで(計画・実施・評価・見直し)

2 感想

今まで、「脳」についてここまで考えた事はありませんでした。脳は体の成長と共に自然に育つものだと漠然と思っていたような気がします。子どもの脳が発達する一番大事な時期が乳幼児期であり、その大事な時期に毎日いっしょに過ごしているのが私達であるという事をもっと意識しなければいけないと思いました。自分の脳は歳と共に衰えていく中で、これからどんどん成長していく子ども達の脳につきあっていくことの難しさ面白さを自分自身も楽しみながら、子ども達の未来を見据えた保育計画を立て実践していこうと思います。

(記録 和東町立和東保育園 榎木由佳)